

個人質問

教育・くらし

Education Life



ICTを効果的に活用した授業づくり

ICT活用による教職員の授業の効率化を図るため、DX人材の確保と、各学校間での学習コンテンツの提供、連携の仕組みをどう考えるか。



タブレットを使用した授業

A 令和3年度は、各学校に授業時のサポートをはじめ、活用事例の紹介やデジタル教材の作成補助など、授業づくりの支援を行うICT支援員を配置する予定。

また、市内すべての教員が日々の授業づくりに活用できる学習コンテンツ

29人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

の提供や好事例の紹介を行うためクラウドの利用と充実を図っていく。

義務教育学校の位置付け

本市初の義務教育学校として南学園の建設が始まる。義務教育学校と小中一貫校の違いは。閉校となる学校のメモリアル作成への支援は。

A 義務教育学校は、一人の校長の下、一つの教職員組織が学校教育目標の実現を目指し、9年間を見通した教育課程を編成し実施する。小中一貫校は、小中それぞれに校長と教職員組織を配置し、学校教育目標や目指す子ども像等の情報共有を図りながら、系統的な教育を実施する。

閉校にあたり、小学校区ごとの記念誌を作成し、該当学区への全戸配布を考えている。各校の沿革や、昔の校舎や子どもの写真を掲載し、4校共通で山南中学校のページを加える予定。

市民団体等と連携し
河川敷の清掃等で海ごみ削減へ

岡山連携中枢都市圏で取り組む「SDGs 守ろう海川プロジェクト」における、海ごみ削減についての清



掃活動はどのような計画で、幾つかの地点で何回行うのか。被覆肥料の殻の回収も行ってはどうか。

A 清掃活動は三大河川水系を中心とした河川敷等で、市民団体やアダプト事業登録団体等とも連携しながら令和3年秋頃を目途に実施したい。清掃場所や回数は、今後、関係団体と協議し決定する。

また、被覆肥料の殻については、陸上にあるものは可能な限り回収をする予定。

デジタル化や個人情報保護に
統括的に対応

デジタル化の推進と併せて、個人情報保護、セキュリティポリシー等も含め、間違いない事業推進が

個人質問は市議会ホームページのインターネット議会で配信しています。



できる組織体制が必要ではないか。

A 個人情報はどう捉えていくかは大変重要で、デジタル化の大きな方向性を考えていくことの一部である。また利用者が安心できることへの配慮がないと、デジタル化は進まないと思っている。

各事業課がそれぞれセキュリティを考えることはもちろん、全体を見回して統括的に対応することが重要であるため、令和3年4月にそういった部署を設ける。

特別障害者手当の
周知と申請の支援

特別障害者手当は障害者手帳がなくても、介護度が重度の方は受給できる場合がある。障害福祉や介護関係者への周知や、相談への支援にどのように取り組むのか。

A 特別障害者手当は診断書によって審査を行うため、手帳の有無は要件としない。

また、制度の周知については、ホームページ、障害者のしおり等での掲載を行っているが、今後は介護部門と連携し広く行う予定。手続きは代理

※8【アダプト事業】

活動団体として認定を受けた住民や企業が道路・河川・海岸・公園の一定区間を自分の養子と見なして、我が子に対するように愛情と責任をもって定期的な清掃・美化活動を行うもの

※7【DX(デジタルトランスフォーメーション)】

ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるという概念

人が申請することも可能で、最寄りの福祉事務所へ相談してもらいたい。

自転車のマナーアップを促進

Q 令和3年4月から「岡山市自転車
の安全で適正な利用を促進するた
めの条例」が施行される。市はどう
マナーアップの活動を行うのか。

A 「市民の広場おかやま」やテレビ、
ラジオ、新聞等さまざまなメディアを
活用し、自転車のマナー向上等につい
て広報している。また、小・中・高校
の児童・生徒全員にチラシを配布し、
大学へは啓発資料の電子データを提供
し、リモートでの新学期ガイダンス等
でも使用できるように準備している。

春の交通安全市民運動や、5月の自
転車安全利用月間には、警察と連携し
て市内各所で街頭啓発を展開する。

「星空の郷」12月供用開始予定

Q 岡南北斎場の建設工事は順調と
見受けられるが、今後の整備スケー
ジュールと名称は。

A 整備工事は順調に進行しており、
施設の管理運営を行う指定管理者につ
いても、令和3年6月議会での議案提
出に向け準備を進めている。供用開始
は3年12月中を予定している。

名称は学区住民を対象としたアンケ

ート調査を行い、馬屋上学区4町内会
で構成する新斎場整備事業推進協議会
で、「星空の郷」となった。斎場周辺
の案内看板等、利用者への周知に使用
する。



**地域課題解決の取り組みを
専門学校生へも拡大**

Q 学生イノベーションチャレンジ
推進プロジェクトの取り組みと、提
案をどう活用したのか。令和3年度
の事業の特徴は。

元年に開催された推進プロジェクトの中間報告会



A 地域の企業や団体と一緒に特産品
の開発や観光振興、防災対策等に取り
組んだことで、企業や団体に刺激を与

えたほか、参加した学生の県内定着率
は7割程度と高くなっている。
3年度からは、より実践的な教育が
行われている専門学校の学生も対象に
加え事業を実施していく。

**ポストコロナを見据えた
飲食店や文化芸術活動支援**

Q 飲食店や文化芸術エンタテイン
メント界の支援に、国の第3次補正
予算で示される地方創生臨時交付金
の地方単独分をどう活用するのか。

A 関係者の苦労は承知しており、こ
れまで「事業継続支援事業」、「スマ
ートフォン決済による消費喚起事業」、
「文化の灯を消さない！プロジェクト」
など時機に応じ対策してきた。

臨時交付金地方単独事業分の23億円
も活用し、地域経済への支援、市民生
活・市民活動への支援など、さらに必
要な対策を早急に行っていきたい。

企業の海外展開を支援

Q 「稼ぐ力強化のための海外展開
支援事業」は、市内事業者が海外展
開するため必要な経費を補助する事
業であるが、取り組み内容は。また
令和2年度の実績は。

A 2年度は、新型コロナウイルスで海外への
渡航が制限されたことなどから事業実

施できず実績はない。一方、市内事業
者のオンライン取引による海外販路拡
大のニーズは急速に高まっている。3
年度は、電子商取引サイトを活用した
販路開拓の経費を補助対象に加え、コ
ロナ禍でも企業が海外展開を促進でき
るよう引き続き支援する。

きめ細やかな支援で正規雇用へ

Q 就職氷河期世代の企業への就職
支援について、令和2年度の取り組
み状況と、今後の支援は。

A 2年度は、正規雇用化支援事業と
して、3日間のスキルアップ研修を
実施し38人が受講した。また、合同企業
説明会を開催したところ28人が参加し、
現在、採用活動が行われている。

3年度も事業を実施予定だが、期間
や内容の異なる複数の研修やキャリア
カウンセラーによる個別相談など、き
め細やかな支援を行いたい。加えて、
就職を希望する職種・企業とのマッ
チングができるよう、市内企業に氷河期
世代正規雇用を働きかけていきたい。



スキルアップ研修会

※9【学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト】
大学生等が、地域課題の解決などに取り組むことによ
って、地元への定着を図ることを目的とした事業

※10【正規雇用化支援事業】
求職者が正社員として採用されることを目指して、正規雇用求人を開拓
し、スキルアップ研修と合同企業説明会を実施する事業



まちづくり・文化
Community Planning
Culture

道路整備の見通しと今後

Q 進行中の道路事業の見通しと、今後重点的に進めていく事業は。



24時間・大型車対応する吉備スマートICイメージ図

A 外環状線の市道藤田浦安南町線は、令和3年度末の供用開始を目指し全線で工事を行っている。県道岡山赤穂線は、国道250号から県道東岡山御津線区間の早期供用に向けJR立体交差点で工事を行っており、状況により中井から土田の区間を整備する。中環状線の都市計画道路下中野平井線は用地取得がほぼ完了、旭川の橋梁

工事などを進めている。都市計画道路米倉津島線は事業化準備を進めている。吉備スマートICの24時間・大型車対応は、事業者と基本協定を締結し、今後、用地買収や文化財調査を進める。

公共交通の利用環境の向上

Q 市民意識調査で公共交通の充実が重要と考える市民は増えているが、市民の交通手段は変化しているか。

A 本市の自動車分担率は1971年から約40年間で27%から60%に倍増し、公共交通は半減した。しかし、市内33の鉄道駅の1日あたりの乗降客数は2005年から15年間で27%増加。また、低床車両の導入支援や岡山駅東口のバス乗り場再編等で、減少傾向だった路面電車の利用者数は2011年から微増、路線バスの利用者数は2006年から横ばいに転じた。

現在は、新型コロナウイルスの影響で公共交通利用は大幅に減少しており、高齢者・障がい者の運賃割引等、利用環境の向上に取り組む。

鉄道駅のバリアフリー化

本市整備部分の先行実施を検討

Q 岡山市バリアフリー基本計画の重点整備地区に上道駅等が盛り込まれた。エレベーター設置について、

仮に本市とJRの足並みがそろわない場合、本市整備部分を先行実施できないか。

A 施設管理者であるJRと協議を行い、実施時期を整理していきたい。

また、橋上駅である上道駅は、改札内側にJR、外側に市が、それぞれエレベーターを設置することになっており、JRが設置に時間を要する場合は本市が先行して設置することも、令和4年度予算の編成時期に検討したい。



東大寺瓦窯跡地から出土した瓦

今後の東大寺瓦窯跡整備事業

Q 東区瀬戸町万富の国指定史跡万富東大寺瓦窯跡は、平安時代末期の戦乱で焼失した奈良東大寺の再建に用いる瓦を焼いた重要な史跡である。

令和3年度以降の整備事業の予定と将来構想は。また、市民を対象に現地見学会等を実施しないか。

A 3年度以降、発掘・測量調査に着手する。新たな窯跡や工房に関する遺構の発見が期待されている。発掘調査を行った場合は、見学者の安全面を最優先に、広く市民に公開する予定。

調査結果をもとに、国の指導を受けながら史跡の保存・整備の計画を定め、工事に着手する。

築造当時の姿を復元し
吉備路エリアの魅力向上

Q 点在する観光資源を面で活用するには魅力向上が必要である。文化財と観光の融合による新たな魅力づくり事業を進める中、千足古墳の復元整備内容と完成後の管理・運営はどう考えているか。

A 古代吉備の歴史を学ぶ場として活用するため、築造当時の姿の復元整備を行っている。令和3年度は、前方部の墳丘造成、埴輪レプリカの設置、石室内の見学設備の整備などを行い、4年度の完成を目指す。

完成後は、地域住民や関連部署との連携を深めながら、造山古墳と一体的に管理、活用を図り、情報発信に努めたい。